

十二月十二日

七時半起床。今日はNHKの正月番組のTV撮影が世田谷村に入るの、三時間程時間を取られる。八時前NHKスタッフ来る。すぐに取材開始。十一時半迄かなりみつちりやる。家内も九時迄取材に付き合う。午後の取材は家内に任せ。十二時新宿西口で森川より函面を受け取り、羽田へ。四時半ANA²⁵⁵便で福岡へ。福岡は小雨らしい。十六時過福岡空港着。忍田さん空港まで迎え

に来て下さる。御主人の会社、KKカンサイが空港の近くで、その一室で打合わせ。まだまだ細かいところはつめて行かねばならないが、大筋で、辿り着いた今回の案でOKと言う事になった。喜んでいただいているようで、私も嬉しい。住宅設計のダイゴ味だね。忍田邸は私の建築の中では、再び言うが、スタンダードを目指したい。十九時前、やま中で夕食をこちそうになる。やま中は磯崎さんに良く連れてきて頂いた寿司屋でやっぱり、上味。オヤジも覚えていて、磯崎さんの話を仕切りにした。まだ酒が飲める状態ではなかったが、フグ刺、白子焼、最後のイカが良かった。二〇時過大満足で喰べ終る。酒は吞まずとも少し寿司に酔った。酒は舌をしびれさせているだけかも知れんな。しかし、口惜しい。少し飲みたかったが、頭に大きな傷を負って、まだホツチキス止めも全部抜けていないのに飲んだら、これは明らかに自滅である。と、自分に言い聞かせる。手負いの建築家は辛いのだ。八時半福岡空港まで送っていただく。研究室に電話して森川と明日の聖徳

寺現場行のスケジュール調整。安藤の高山邸作業の進行を確認する。明日は早朝五時半に世田谷村発という事になる、又、今夜は羽田に着いたら深夜研究室に寄って安藤の作業をチェックする事になった。酒を吞まぬと、異常な事も平気で出来る。しかし、チヨツとやり過ぎではあるが、仕方ない。今は良い仕事が出来ると条件が整っているんだから。帰りの機内で、川合隼雄、中沢新一の「仏教が好き」読む。二十二時四〇分降下開始。二十三時十分前羽田空港着。二十四時三〇分研究室。安藤担当高山邸を見る。二時前修了。世田谷村へ戻る。二時半。三時迄Memo連載のゲラに手を入れる。

十二月十三日

五時十五分起床。全く眠れなかったもので、ポーツとしている。五時半森川世田谷村来。富士ヶ嶺聖徳寺現場へ。薄闇の中に富士山がニョキッと見えている。中央高速を走り、途中、国民休暇村で朝食バイキング。国民の味であった。八時過現場。ガラスの納め方を森川に指示。工事は上手くいつている。ガラスをギクシャク納めて、宝石状の光を得るのが目的である。富士山、南アルプス、北アルプスが一望の許であった。ここの冬の風景は良い。森川を現場に残し九時前、現場発。十時三〇分杏林大学病院着。十一時過検診。頭に残る最後のホツチキス二ヶ取り除く。もう風呂に入って良いとの事。頭の外傷に関しては、もう来なくて良いとの事である。十三時過研究室。室内原稿書く。書き終わったら室内の長井が来室。何か示し合わせたような感じだ。初回は前口上となった。十七時上海より登混艶氏、A&V馬街東氏、藤森研白さん来室。明後日上海でお目にかかる人物である。上海でのレクチャーの準備をして、十八時三〇分高山夫妻と子供二人来室。一

回目のプレゼンテーション。安藤も少し役に立つ様になった。小さな模型を持ち帰っていただく。立体コートハウスである。二十時頃修了。ひろしまハウスのモデルを見たいと言つので、説明する。二十二時前、世田谷村に戻る。今日は良い天気の日であった。昨日のNHKの取材はわざわざ最悪のコンディションを選んだようだ。

十二月十四日 日曜日

六時起床。上海のための荷作り。朝食。七時二〇分、安藤、車で来て、指扇の現場へ。八時過アツという間に現場着。森田兼次さんが、すでに来て待っていた。森田さんと仕上げの打合わせ。達人は細かいところまで気付くので手が抜けない。内、外共に入念に見て廻り、諸々の打開策を指示する。今、研究室では四つの住宅の現場が仕上がりがつつあるが、この指扇のモノが頭一つ抜けている。問題は多いが、内外共に独特である。吉坂隆正のヴィラ・クークの木造版かな。藤森照信の手をわずらわせて、ワザワザ、遠くから大径の栗を運んできた甲斐があった。ここしばらくの石山研の住宅では良い。自慢したい。生命力がある。太目の木を製材せずに使ったからだけではない。十九時半新宿、本八幡を経てNRT第二ターミナル。只今待合ロビーに辿り着いて休んでいる。三〇分「仏教が好き」読もう。十九時前離陸。二十一時過上海着。地上気温三度Cというから少し寒いな。李祖原が空港まで来てくれていた。小さなマイクロバスで早速ワークシヨップ会場の登先生の倉庫改造のスタジオの下見をする。ハイウェイを走り、辿り着く。上海は東京よりも人口があつて、今は千六百万人位。年々増えているようだ。とても歩いて廻れるようなところではない。スタジオ会場は大きくて、日本ではとても得られぬよう

なところ。昨日東京で会った登さんにも再会する。三部屋程を借りて、教室、及び作業場とする。明朝、まわりの状況は見る事として、一時間程で同済大学専家服務中心、つまり宿舎へ。三階三二三を割り当てられる。少し古いけれど、ゆつたりとして立派なものだ。頭に裂傷を負つて、約十日振り位に、頭を洗う。良くアワの立たぬシャンプーであつたが気持良かった。シャワーは急に熱湯が吹き出たりで危いものだったが、何とかやれるだろう。ゼいたくは言えない。十二時過ようやく、くつろいで二十五日までスケジュールを再考する。一時四十五分、スケジュール組み立て直し終る。ハードだが楽しいワークシヨップになりそうだ。チヨツと凄いスケジュールを考えついでしまった。